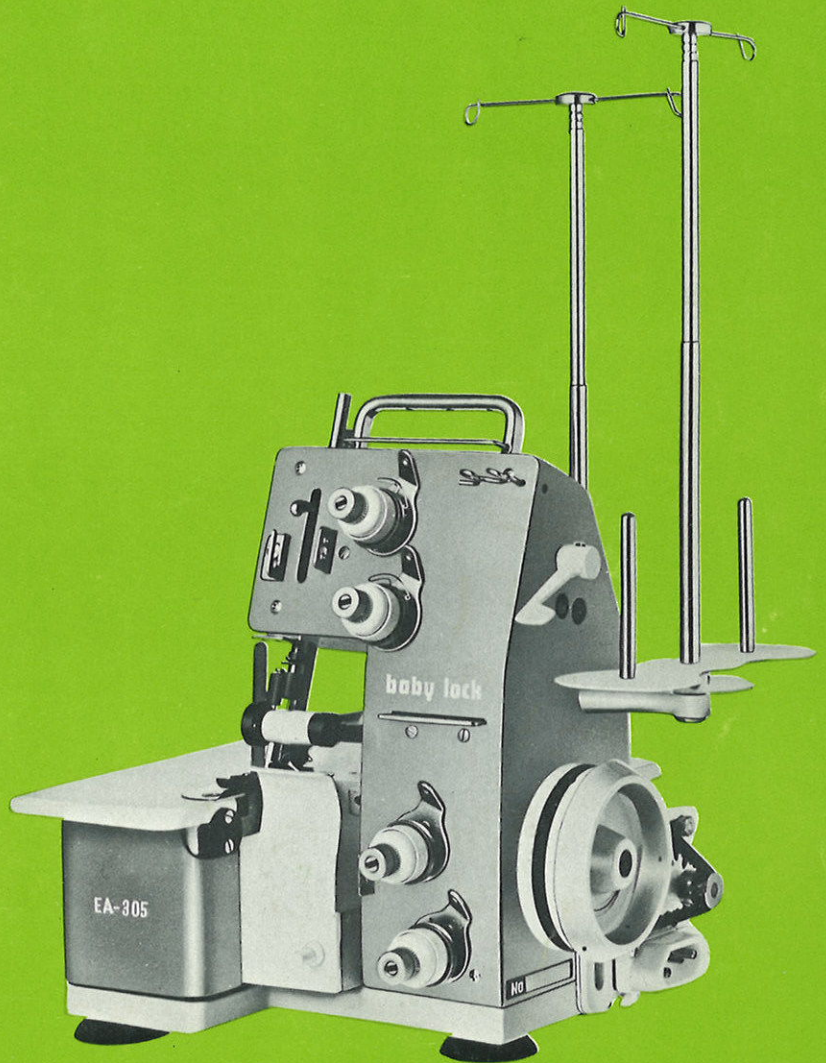


# ベビーロック

## 縁かがり & 地縫いミシン

EA-305型

### 使用説明書



押え調節ねじ

糸立装置

天秤

取手形糸案内

天秤糸かけ

下糸案内ばね

針棒

上糸調子器(地縫用)

針止め

上糸調子器(縁かがり用)

押え棒

下糸調子器(縁かがり用)

押え

下糸調子器(地縫用)

下側面カバー

底板

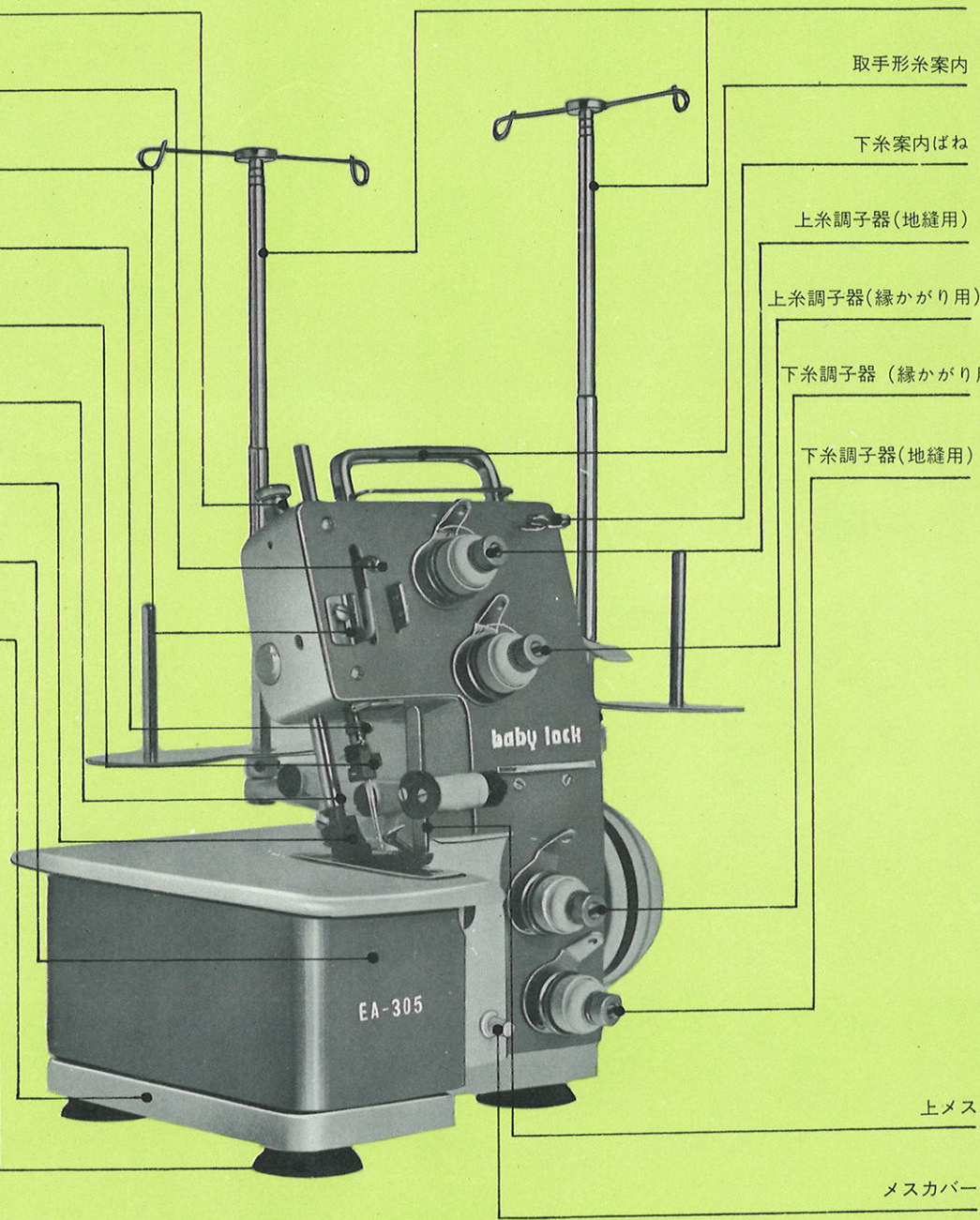
底板ゴム

baby lock

EA-305

上メス

メスカバー



## 目 次

●このミシンでできるいろいろな縫い方	2
1. ミシンのセットの仕方	4
2. 針の取り付け方	5
3. 糸のかけ方	6
4. 縫いはじめについて	9
5. 糸調子について	10
6. 押え圧力について	12
7. 送り目の調節について	12
8. 注油について	14
9. 縫い速度について	14
10. ミシン調整の仕方	15
(付録)	
1. 付属品の明細	15
2. 下側面カバーの利用について	16
3. メスの交換について	16

# はじめに

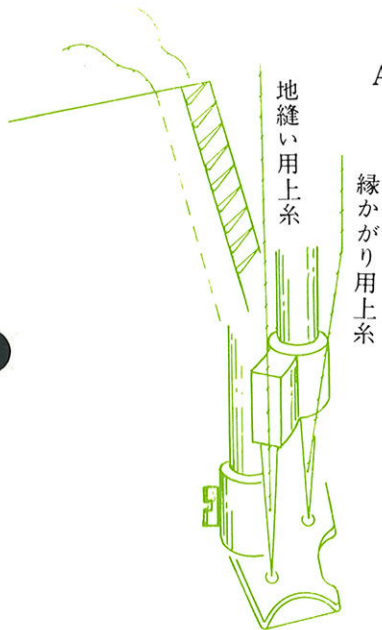
このたびは、ベビーロック E A-305 型をお買上げくださいます、ありがとうございます。

本機は〈縁かがり〉の機能を完全にそなえているうえに〈地縫い〉(Wチエーン・ステッチ) および〈縁かがり&地縫い〉もできる世界ではじめての製品です。持ち運び自由のコンパクトタイプですから、専用テーブルは不要。どこでも、気軽にお使いいただける便利さが大きな特長になっています。洋裁店、テーラーはもちろん、一般のご家庭でも縫うことの多いブラウス・シャツ・ズボン・スカートなどの〈縁かがり〉〈地縫い〉、また、ハンカチ、テーブルクロス・タオル地などのほつれ止めや飾り縫いに、本機の用途はたくさんあります。

どうか、末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



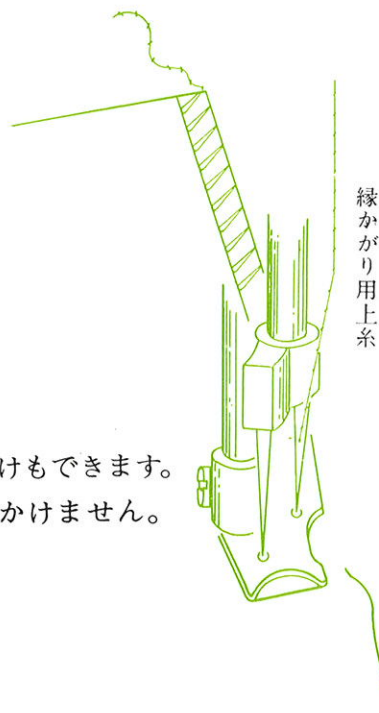
# このミシンでできる いろいろな縫いかた



A) このミシンは、左図のように〈地縫い〉と  
〈縁かがり〉とが同時にできます。



B) 右図のように〈地縫い〉(合わせ縫い)だけ  
もできます。この場合は、縁かがり用の糸  
をかけません。



C) 右図のように〈縁かがり〉だけでもできます。  
この場合は、地縫い用の糸をかけません。

# 1 セットの仕方

このミシンの梱包箱には、ミシン本体のほか、つぎのものがはっています。

- 1) モーター一式 (標準梱包の場合)
- 2) 糸立セット 2セット
- 3) 付属品入りのアクセサリボックス
- 4) 使用説明書
- 5) 検査合格証

このミシンを動かすには、つぎの順序で正しくセットしてください。ムリな取り付けをしますと、故障の原因となります。

## 1) モーターの取り付け。

第1図のように、ベルトをかけながら、取付ネジを締めつけます。その場合、ベルトが少しタワむ程度の張力が適当です。もしベルト張力の具合が悪い場合は、張力調整セットで調整してください。

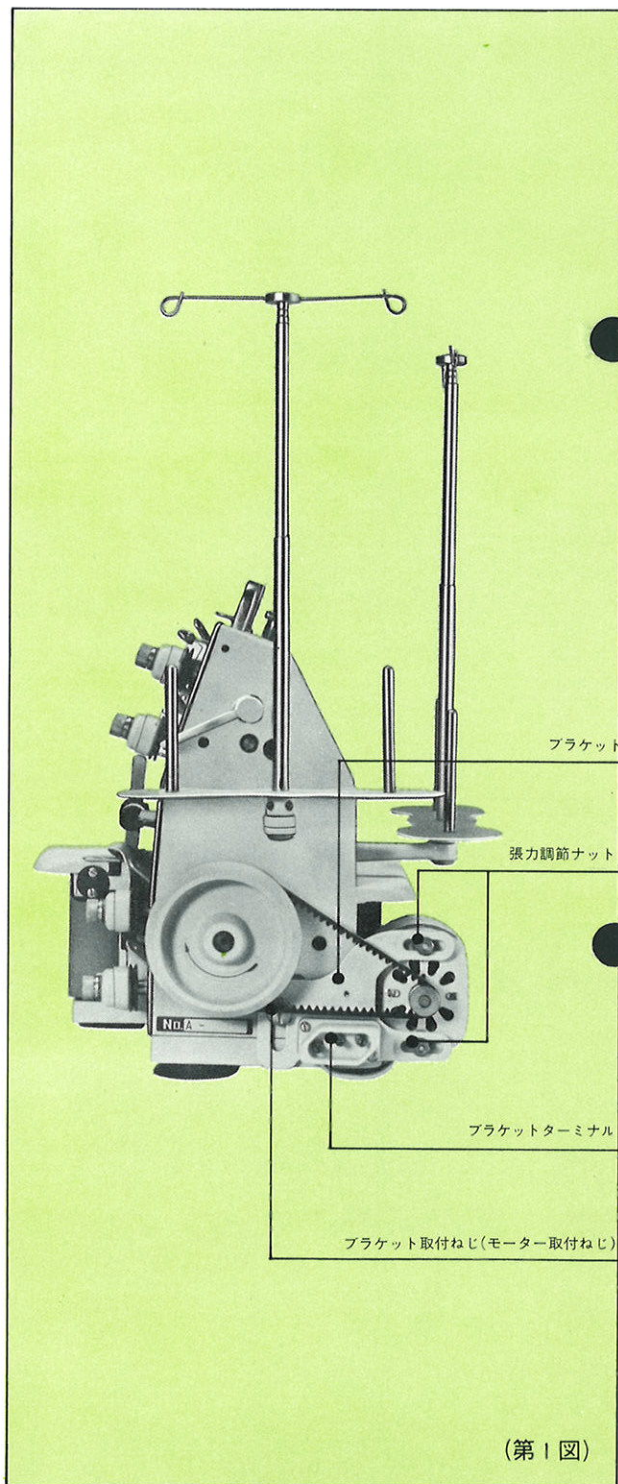
## 2) 糸立装置の取り付け。

第2図・第3図のように、取付孔に差しこみ、横にある締付ネジで、それぞれ取り付けます。

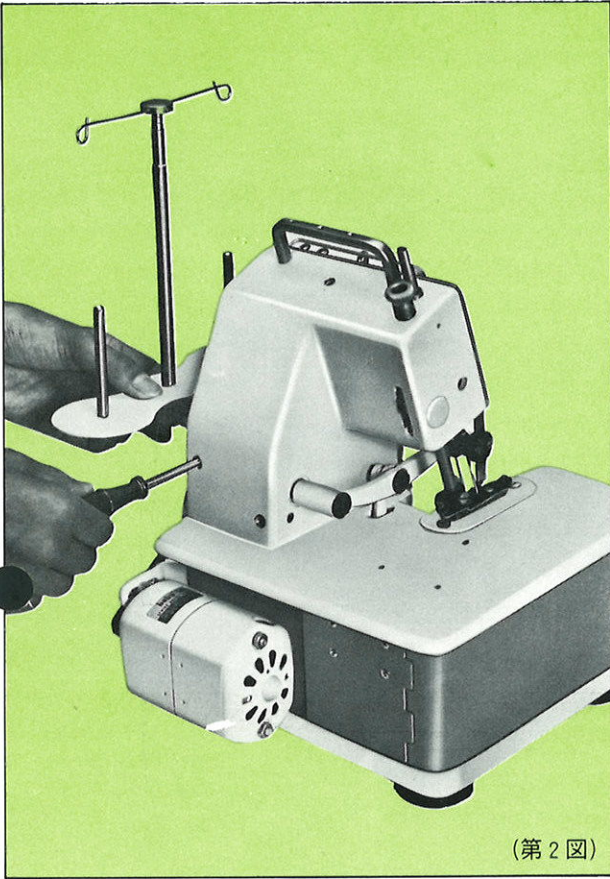
つぎに、糸巻受板（ひょうたん形の板）をミシンに平行に固定し、それがおわたたら、糸立装置の伸縮具合を確認してください。

## 3) コントローラーの接続

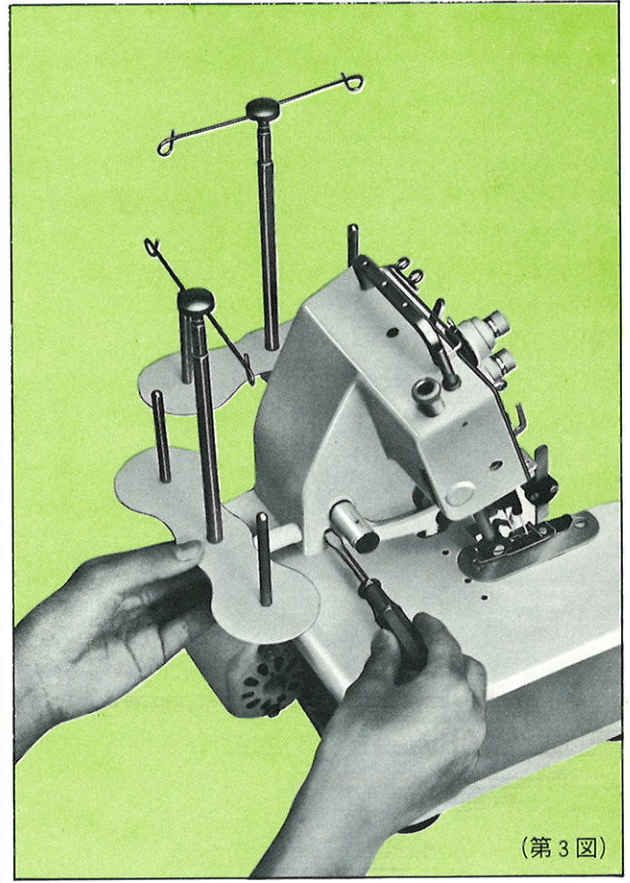
コントローラーの3極プラグをモーターブラケットのターミナルに差しこみ、つぎに電源にコンセントプラグをさしこみます。コントローラーペダルの踏み加減で、ミシン速度が調節できます。



(第1図)



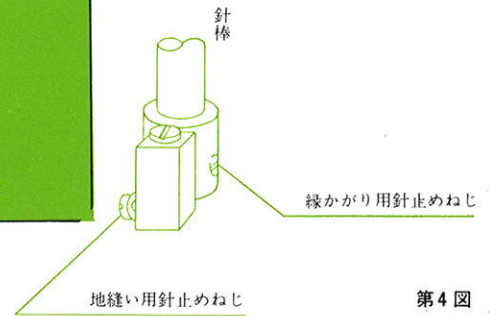
(第2図)



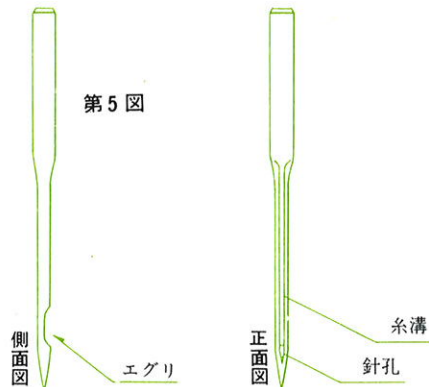
(第3図)

## 2 針の取り付け方

- 1) このミシンは、地縫い用針も縁かがり用針も、ともにDB×1の#14ないし#11を使います。
- 2) 針を取りつけるには、最初にはずみ車を時計の回転と同じ方向に手で回して、針棒をいちばん上まであげます。
- 3) つぎに、第4図のように針止ネジをゆるめて、針を奥までさしこみます。  
その場合、針の取り付けの方向は、第5図のように正面から見て、糸溝が正面にくるように合わせてください。
- 4) 針止ネジは、かたく締めてください。



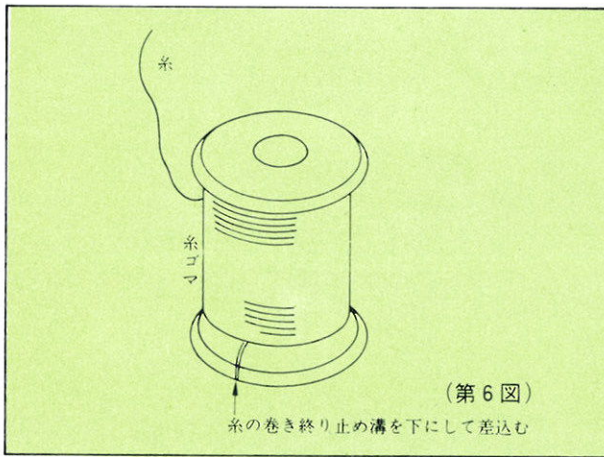
第4図



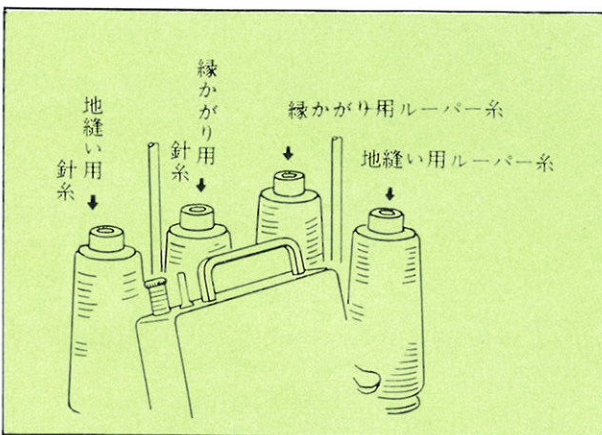
第5図

# 3 糸のかけ方

普通円錐形(第7図のような糸捲)の糸捲きを使用しますが、コマ糸を使う場合は、第6図のように差しこんで使用してください。



※また、それぞれの糸の配分は下図のとおりです。



## 1) 縁かがり用針糸のかけ方

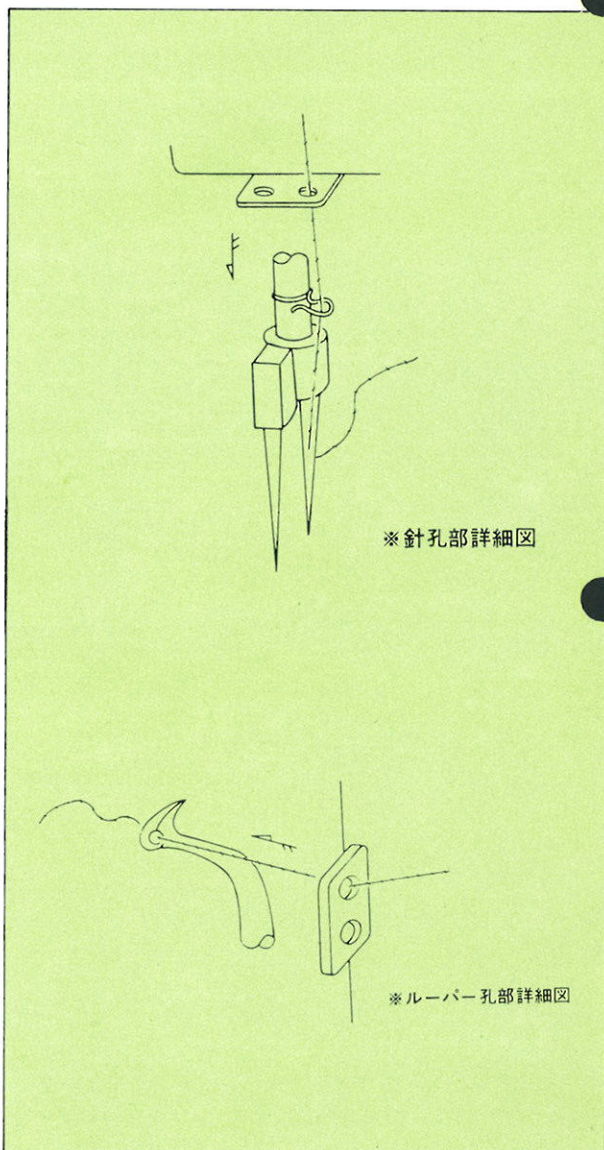
第7図のように、順番をおってとおしてください。

## 2) 縁かがり用ルーパー糸のかけ方

針糸と同様に、第7図のように順番をおってとおしてください。

※なお、ルーパー糸はメスカバーをはずしてから(メスカバーのつまみを軽くつまみ、右方向に引いてください。その場合、糸調子器にメスカバーを当てないように注意しましょう)

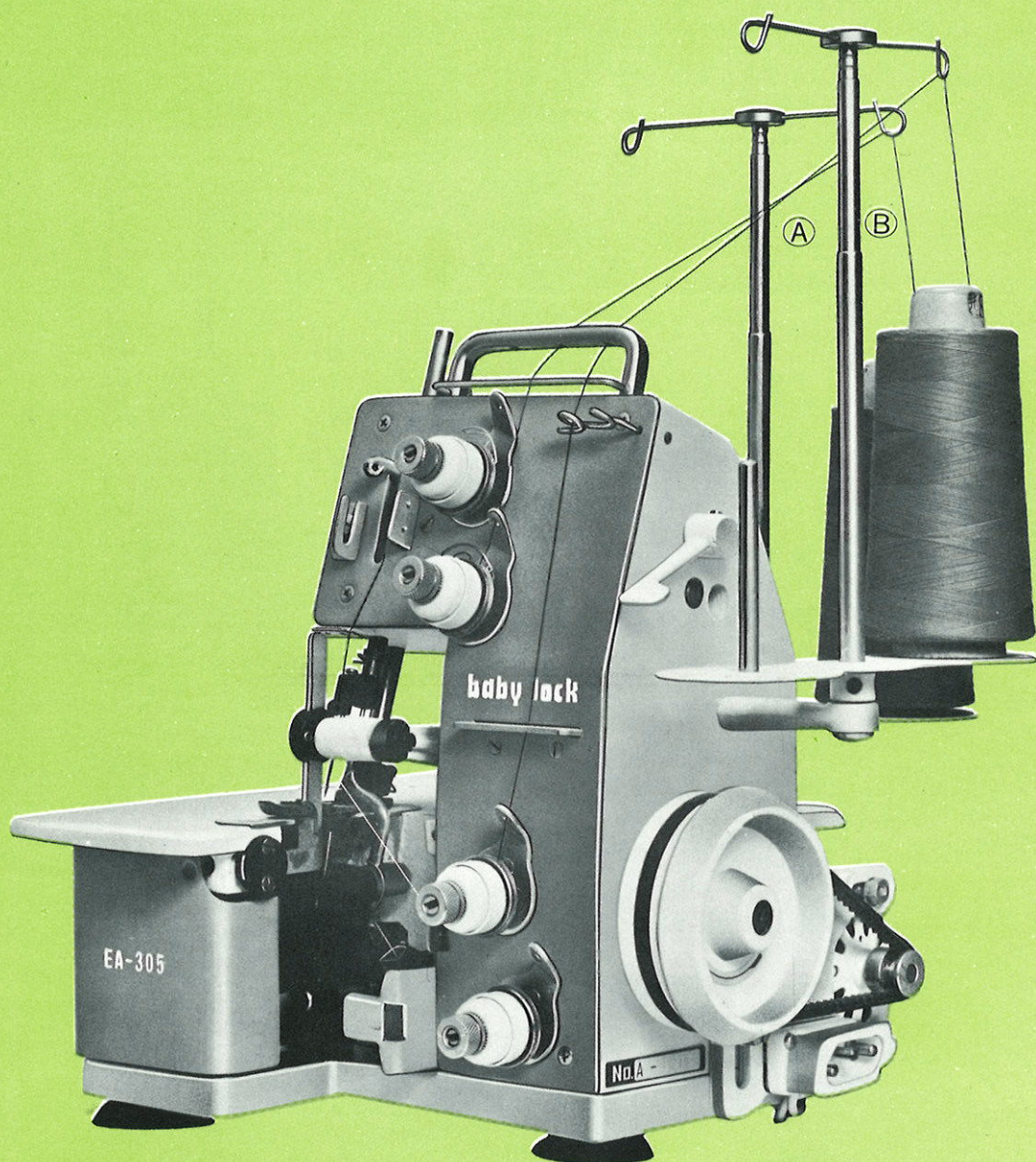
糸とおしを行ない、糸とおし後、必ずメスカバーを取りつけてください。





### 縁かがり用針糸のかけ方

- Ⓐ —— 縁かがり用針糸(上糸)
- Ⓑ —— 縁かがり用ルーパー糸(下糸)

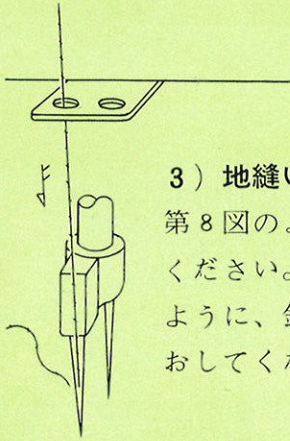


第7図

## 地縫い用糸のかけ方

Ⓐ—— 地縫い用針糸(上糸)

Ⓑ—— 地縫い用ルーパー糸(下糸)

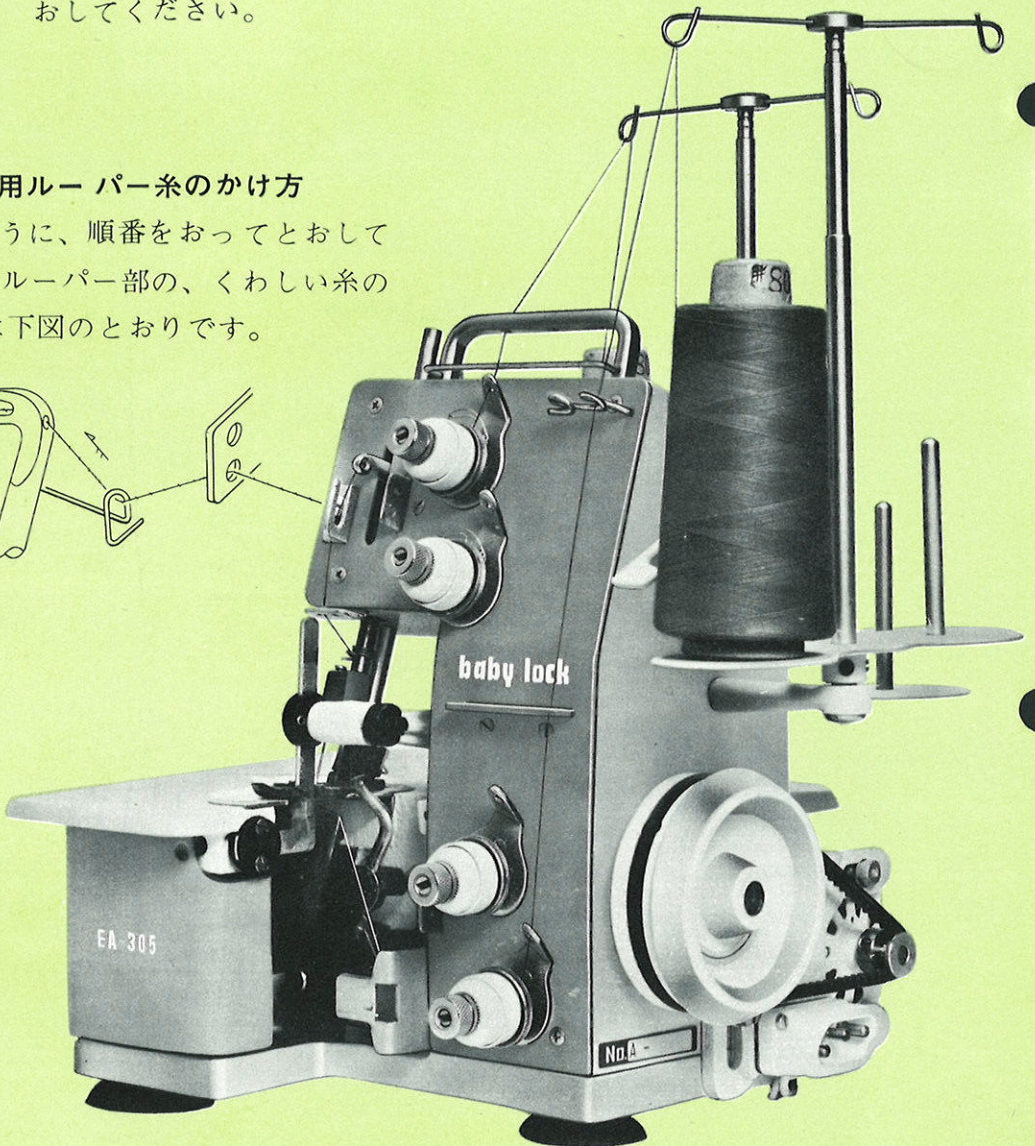
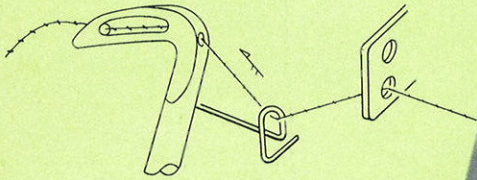


### 3) 地縫い用針糸のかけ方

第8図のように、順番にとおしてください。なお、針孔部は下図のように、針孔手前から向こうにおしてください。

### 4) 地縫い用ルーパー糸のかけ方

第8図のように、順番をおってとおしてください。ルーパー部の、くわしい糸のおし方は下図のとおりです。

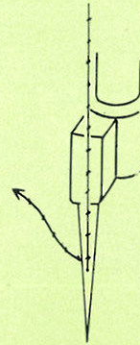


第8図

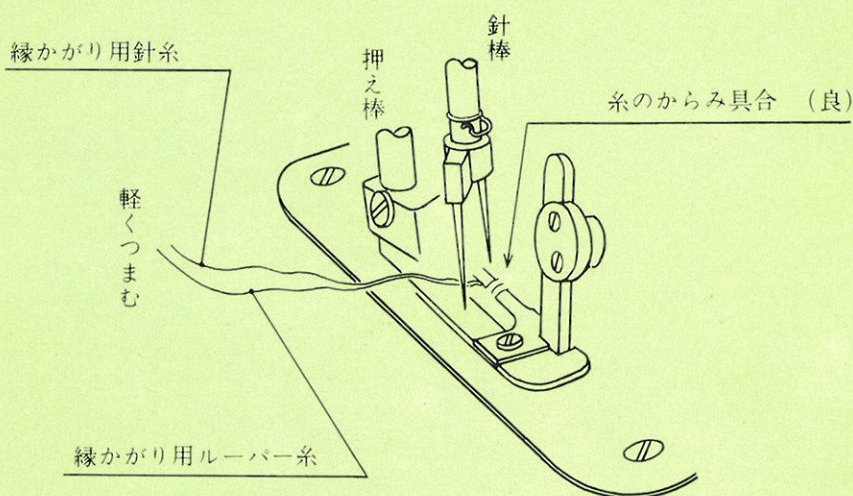
# 4 縫いはじめについて

糸かけが終わったら、第9図のように縁かがり用針糸（上糸）と、縁かがり用ルーパー糸（下糸）とを左手で軽くつまみ、右手で、はずみ車を静かに時計の方向に2～3回まわして、糸のからみ具合を確かめてから布をセットし、始動してください。

●この場合、地縫い用ルーパー糸はそのままにし、地縫い用の針糸は右図の状態で縫いはじめてください。



※ 押え孔に通さずフリーで縫い始めて下さい



第9図

# 5 糸調子について

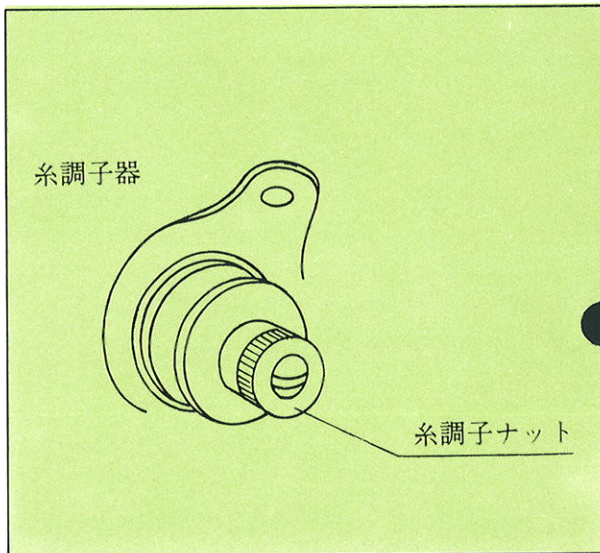
糸の調子の取り方は、布地の種類や縫い糸の太さ、種類などによってちがいます。

そのつど、縫いあがりの目を見ながら、糸調子器の調整をして縫い調子をだしてください。

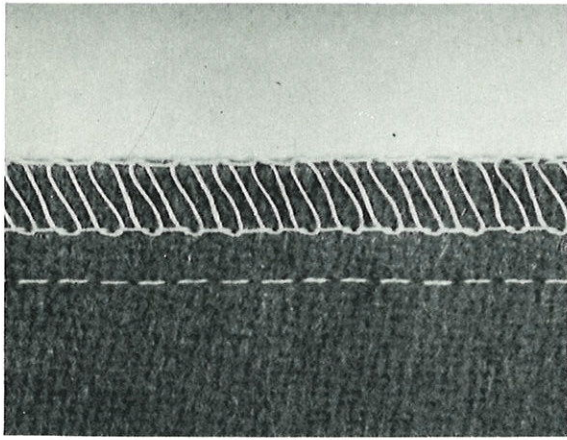
(第10図参照)

※糸の張力調整は、糸調子ナットを右に回すと強くなり、また、反対に左に回すと弱くなります。

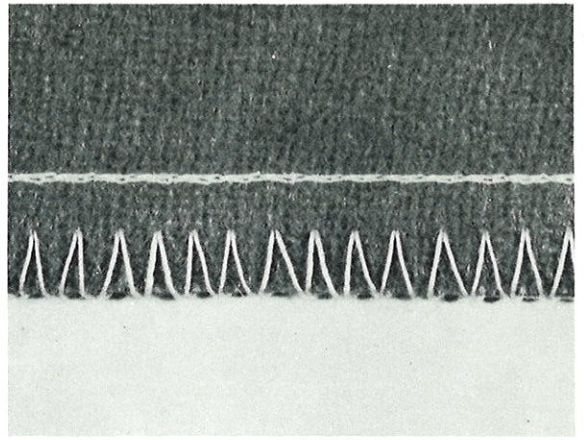
※特に、薄ものの布地の場合は、縫い終わり部分を少し引きぎみにして布を送ってください。



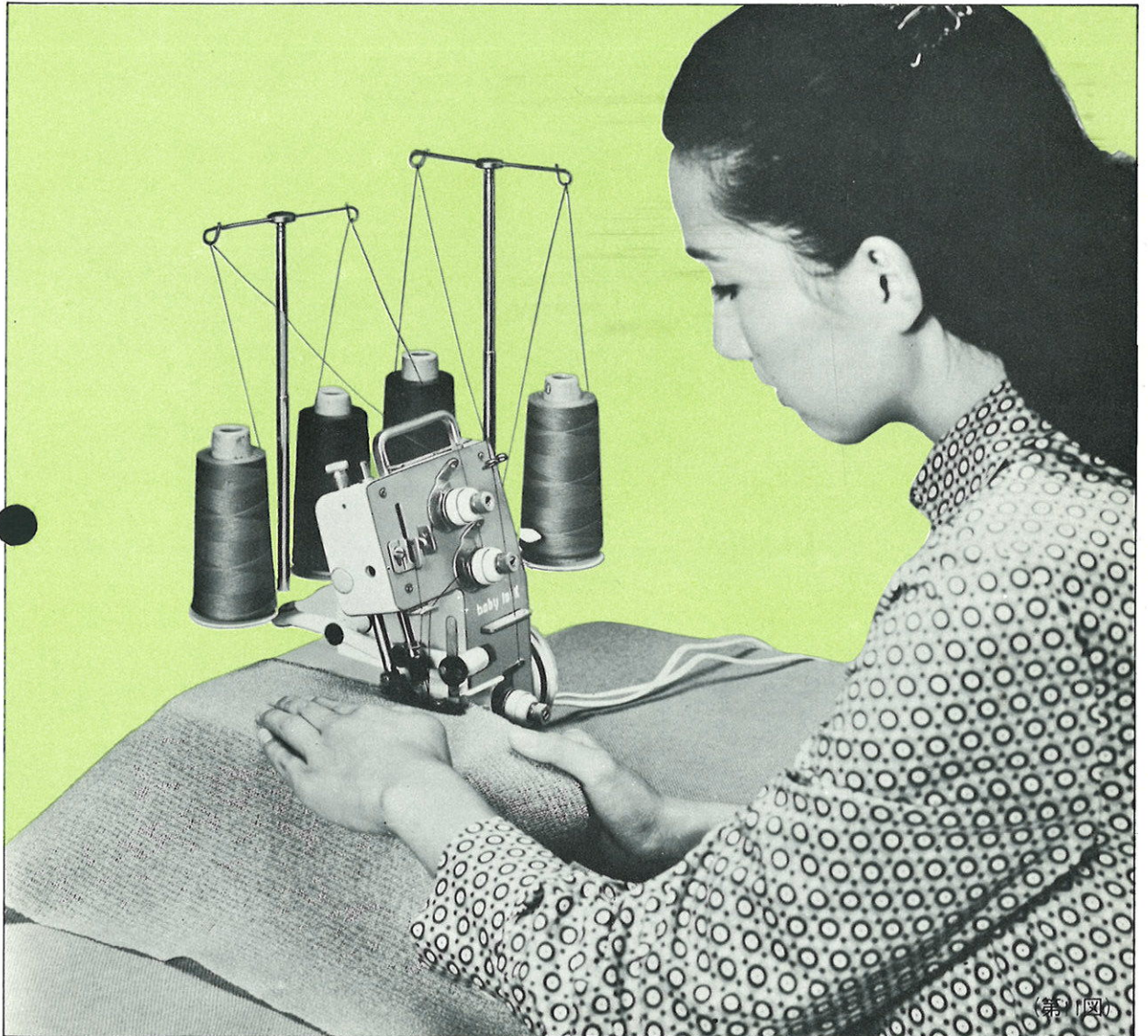
(第10図)



表側縫目



ウラ側縫目



(第1圖)

# 6 押え圧力について

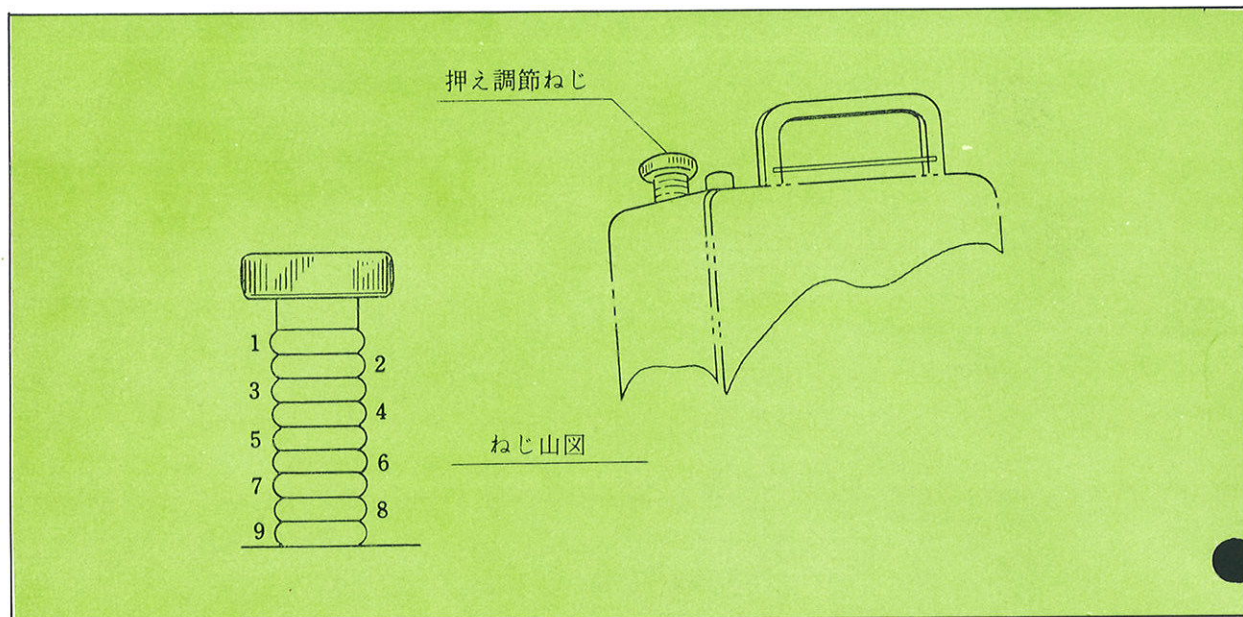
本機は、すでに押え圧力を薄もの・中厚もの向きに調節してありますが、特に厚いものまたは、ごく薄いものにご使用のときは微調整が必要です。

たとえば、押えが強すぎると、布縮みを起したり布に傷をつけたりします。

また、押えが弱すぎると縫い目が不揃いにな

ったりしますから、つぎの表を参考に適切な調整をしてください。

布 地	押え圧力
薄ものおよび 中厚もの	ネジ山を6つ目まで ねじこむ
厚もの	強くするネジ山を4 つ目までねじこむ

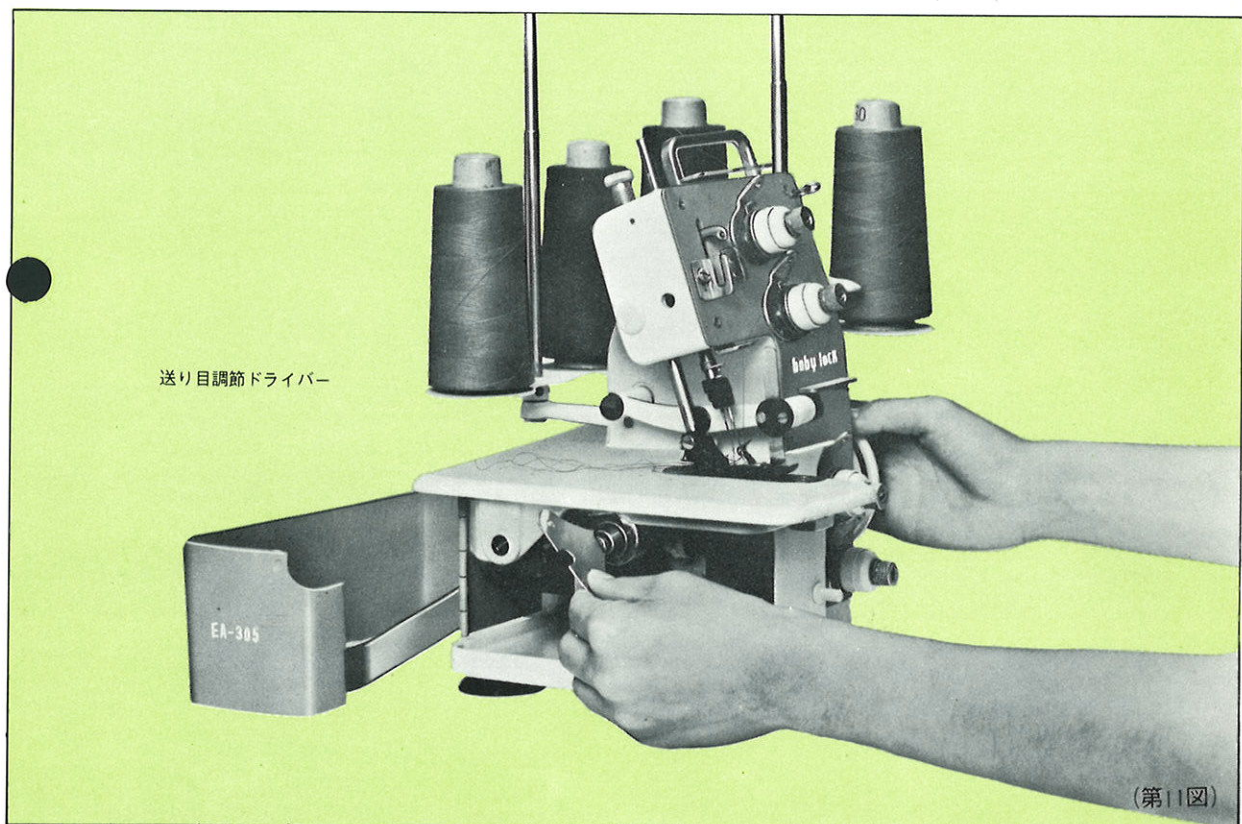
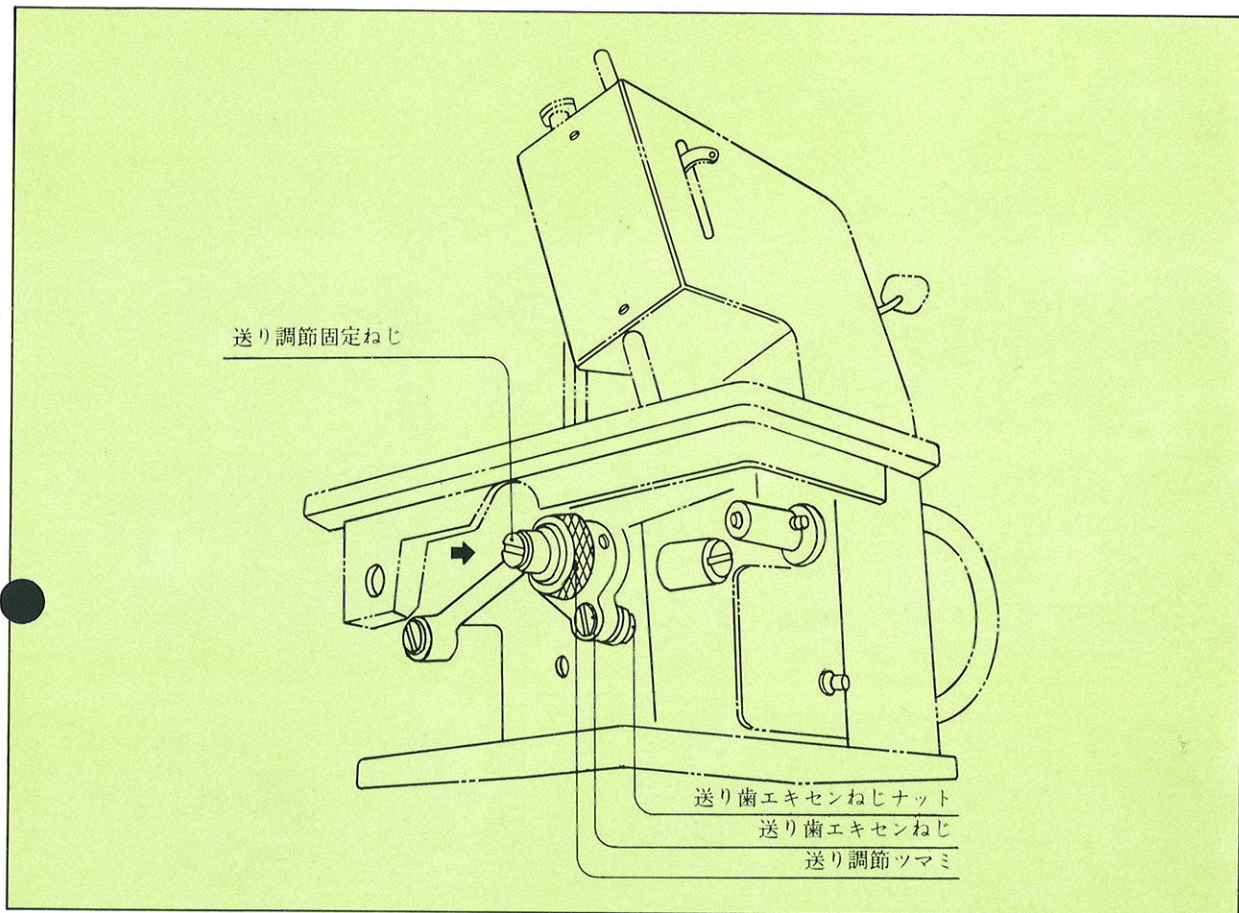


# 7 送り目の調節について

送り目の長さ調節は、第11図の要領でおこないます。右手ではずみ車を押え、左手で専用のドライバーで送り調節固定ネジをゆるめ、送り調節つまみを右に回わすと、送り目は大

きくなります。反対に左に回わすと送り目は小さくなります。

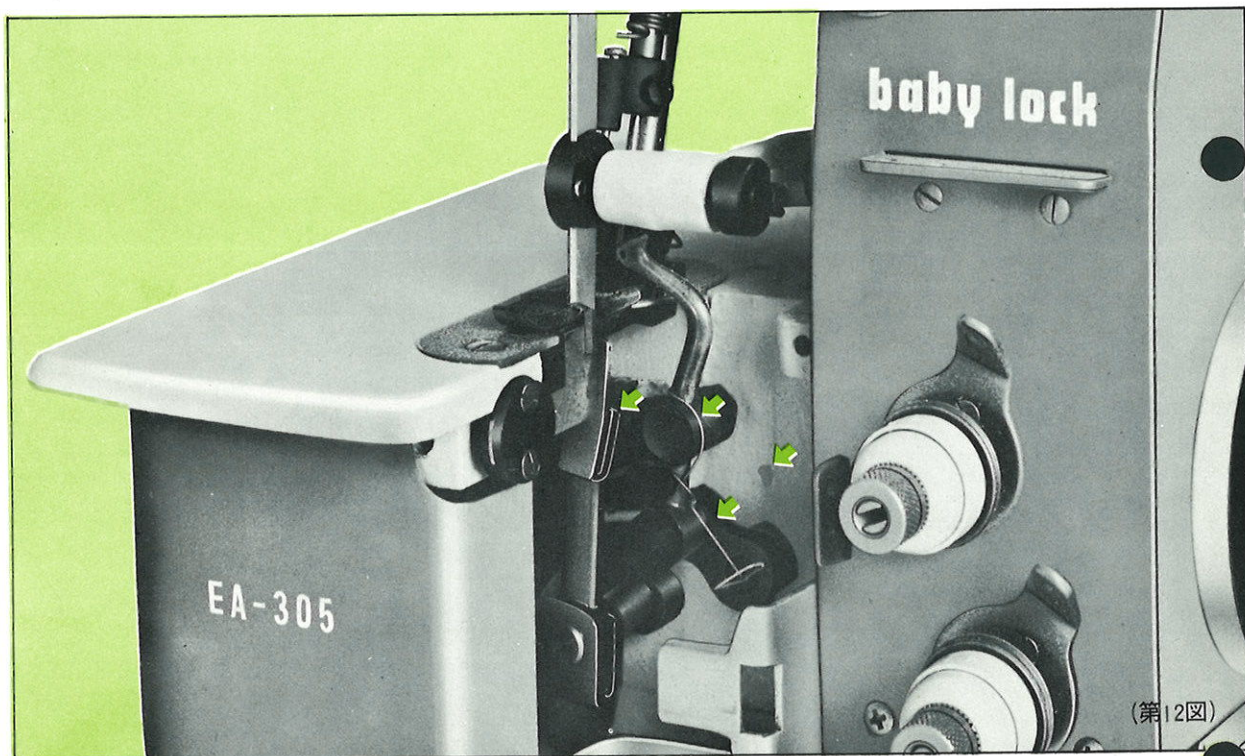
※調節が終わったら、送り目調節固定ネジは、かたく締めておいてください。



# 8 注油について

このミシンの最も大切な箇所には、特別な材料を用いて、あまり注油を必要なくしてあります。また、注油をする際に不便な箇所には油芯を設置してありますから、第12図に示す

箇所およびミシンに赤印のつけてある孔に、1カ月に1～2回、1回当たり1～2滴ずつ注油してください。



# 9 縫い速度について

このミシンは、最高毎分 1,600回転のスピードです。かなりのスピードですから、ご使用になる場合コントローラーのペダルで適時加減しながら、使用してください。

※このミシンに使用しているモーターは、このミシン専用のモーターですから、ほかのミシンには使用できません。



# 10 ミシンの調整の仕方

このベビーロックは、むつかしい専門的な調整をしないですむように設計されています。つぎのような5つの例は、基本的な調整ができていないときに起りやすい故障ですから、よく覚えておいてください。

## A) ミシンが動かないとき

- コードをちゃんと差しこんでありますか。
- モーターの取付位置がズレていませんか。
- ベルトがゆるいではありませんか。

## B) 糸が切れるとき

- 糸かけは正しいですか。
- 糸調子が強すぎませんか。
- 針は曲っていませんか。
- 押えの強さは適当ですか。
- 糸の種類はどうですか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

## C) 針が折れるとき

- 針が、針板や押えにぶつかっていませんか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

## E) 目とびするとき

- 針が曲がっていたり、針先がすり減ったりしていませんか。
- 針を正しく取り付けましたか。
- 糸のかけ方が、まちがっていませんか。
- 押えが弱いではありませんか。

## E) 縫い目の調子が悪いとき

- 上糸、下糸の張力調整は、じゅうぶんですか。
- 糸のかけ方は正しいですか。

## 付録1 付属品明細

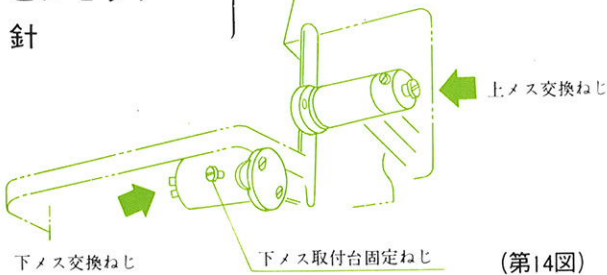
A. アクセサリーボックス	1 コ	⑥ピンセット	1 〃
①ドライバー (中)	1 コ	⑦掃除用ブラシ	1 〃
②ドライバー (プラスねじ用)	1 〃	⑧油差し (30cc入り)	1 組
③スパナ	小口(送り歯節調用)	⑨ミシン固定用ボルトおよび座金	1 〃
	大口(モーターブラケット 締付ねじ用)	⑩ドライバー (送り目調節用)	1 コ
④針 (DB×1 #14)	10本	B. 検査合格証	
⑤上メス	1 コ	C. 使用説明書	

## 付録2 下側面カバーの利用について

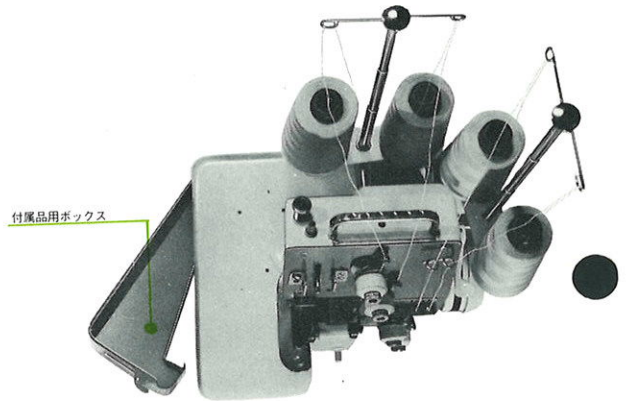
第13図の下側面カバーのボックスには、縫製作業を行なう際に必要な付属品をいれてご使用ください。

掃除用ブラシ  
ピンセット  
針

等の日常使用する付属品



(第14図)



## 付録3 メスの交換について

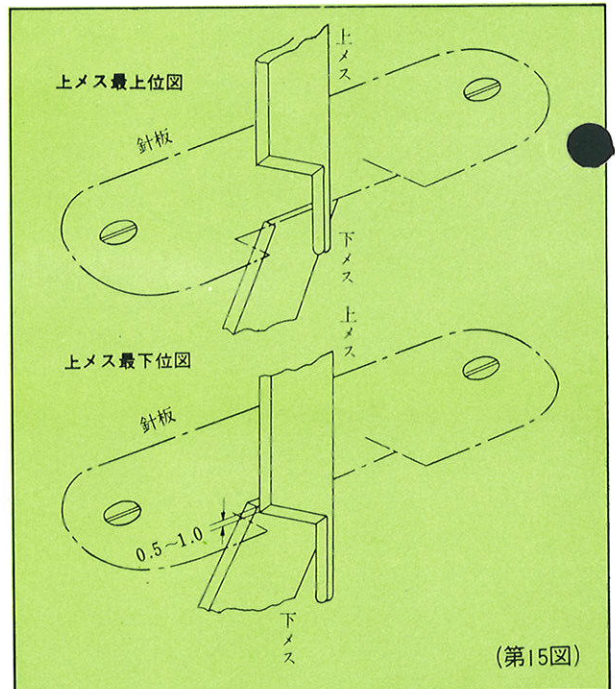
メスを交換するときは、はじめに必ずコンセントを抜いてから作業してください。

上下メスとも、第14図の交換ネジをゆるめて行ないます。

下メスの取付位置は、針板のメス受けみぞにメスの左側を当て、固定します。

上メスは、下メスに対していちばん下がった位置のとき、上メスの手前刃先きが下メス刃先きに対して0.5ミリから1ミリ沈むように取りつけます。第15図でよく参照しながら練習してみてください。

※切れ味をよくするためには、上下のメス合わせがポイントです。また、上メスがメスカバーに接触しないかどうか、調べておくことが大切です。



(第15図)

## 付録4

# カーボンブラシの取り替え方法

このミシンに使用しておりますモーターにはカーボンブラシが2個(2カ所)取付てあります。長時間御使用頂くと、摩耗しますから、下記方法でカーボンブラシ摩耗を交換して下さい

### A) 交換の時期

摩耗によってブラシ部分が〈カーボンブラシ図〉の様に短くなったら、交換して下さい。

※普通の使用状態で 300時間程度が、交換時期です。

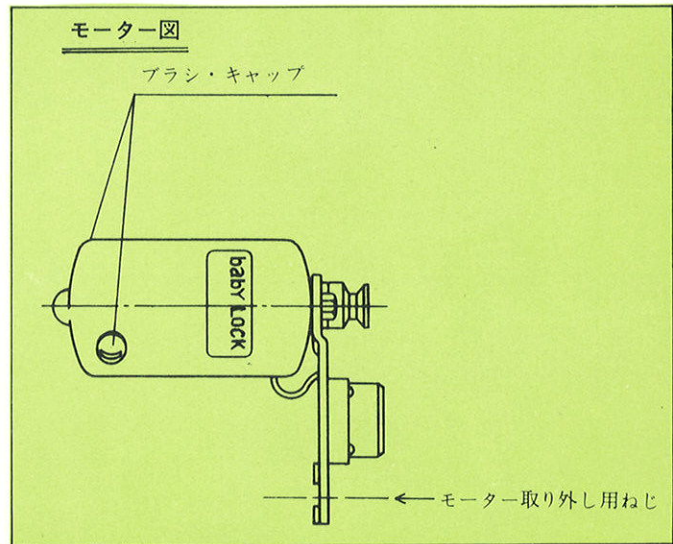
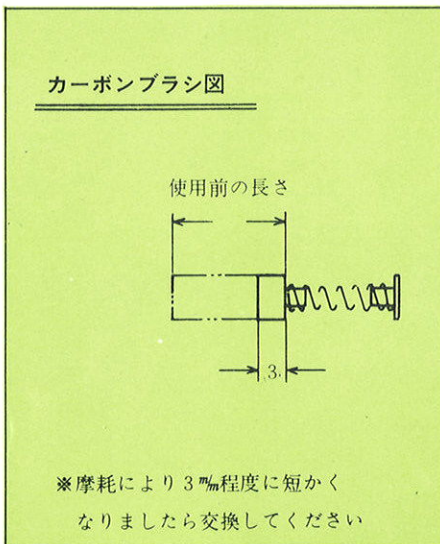
### B) 交換の方法

最初にモーターを取り外します(使用説明書第1図のブラケット取付けねじを取り外すこと)次に〈モーター図〉のブラシキャップを各々取付し、新しいブラシと交換してください。

### 〔注 意〕

摩耗したブラシを、そのまま使用していると、モーターから火花が出たり、又モーター故障の原因になりますから、御注意下さい。

※カーボンブラシの購入先・ミシン店又は、電気器具店でお求め下さい



## EA-305型仕様表

基本項目	仕 様	基本項目	仕 様
縫速度	最高1600spm 常用1300spm	送り歯高さ	0~1.3mm (標準高さ0.6mm)
かがり巾	4mm (縁かがり巾)	使用針	DB×1 #11 #14
針 巾	3mm (針間隔)	使用糸本数	4本
縫い目(送り目)	1~6mm	給油方式	油芯装置付手差方式
鉄棒ストローク	27mm	ミシン大きさ	タテ 250 ヨコ 250 高サ 280mm
メス上下量	6.3mm	ミシン重さ	10kg (モーター付完成品)
押え上り量	4mm		

